

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	数学	科目	数学 I	単位数	2		
年組	1年 1組		教科書(発行所)	高校数学 I (実教出版)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4	ウォームアップ 1章 数と式 1節 整式 2節 実数 3節 方程式と不等式	四則計算の優先順位	○		○	学習の目標 ・数学的活動を通して、論理的な思考力や演算能力を伸ばす。 ・与えられた問題に対して、適切な開放を選択して答えることができるようにする。 ・基本的な高校数学の知識を身につけ、今後の学習への基礎を固める。	
5		1 文字式のきまり 2 整式 3 整式の加法・減法 4 整式の乗法 〃	○		○		
6		5 乗法公式による展開 6 因数分解 1 平方根とその計算 2 実数	○	○	○		
7		1 1次方程式 2 不等式 3 不等式の性質 4 1次不等式 5 連立不等式 6 不等式的应用	○	○	○		
				○			○
				○			○
				○			○
			○		○	授業の進め方 ・教科書の例題を用いた解説 ・教科書や副教材の練習問題を用いた演習 ・小テストによる紀州事項の確認 ・言語的活動による応用問題への取り組みなど	
7	2章 2次関数 1節 関数とグラフ 2節 2次関数の値の変化	1 1次関数とそのグラフ	○		○	学習の方法 ・授業で学習する内容を、あらかじめ教科書で予習してくる。 ・教科書や副教材で支持された課題を解いてくる。 評価の観点 ○知識・技能 ・基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているか。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけているか。 ○思考・判断・表現 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質やほかの事象との関係を認識し統一的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけているか。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠のに基づいて判断したりしようとしているか。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしているか。	
8		2 2次関数とそのグラフ 〃	○		○		
9		〃	○		○		
10		〃	○		○		
11		1 2次関数の最大値・最小値 〃	○	○	○		
12		2 2次関数のグラフと2次方程式 〃	○	○	○		
12	3節 三角比 1節 三角比 2節 三角比の応用	1 三角形 2 三角比 〃	○		○	評価の方法 ・授業態度 ・発表や板書などの取り組み ・課題の提出 ・小テスト・定期考査	
1		3 三角比の利用 〃	○		○		
2		4 三角比の相互関係 4 三角比の相互関係 2 三角形の面積 3 正弦定理 4 余弦定理	○	○	○		
3		5 正弦定理と余弦定理の利用 〃 〃	○	○	○		
				○			○
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	数学	科目	数学Ⅰ・A	単位数	5		
年組	1年2組		教科書(発行所)	新編 数学Ⅰ、数学A (数研出版)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4	第1章 数と式 第1節 式の計算	1 多項式の加法と減法 2 多項式の乗法 3 因数分解	○	○	○	学習の目標 ・数学的活動を通して、論理的思考力や演算能力を伸ばす。 ・与えられた問題に対して、適切な解法を選択して答えることができるようになる。 ・基礎的な高校数学の知識を身につけ、今後の学習への基礎を固める。	
5	第2節 実数 第3節 1次不等式	4 実数 5 根号を含む式の計算 6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式	○	○	○		
6	第2章 集合と命題	1 集合 2 命題と条件 3 命題とその逆・裏・対偶 4 命題と証明	○	○	○		
	第3章 2次関数 第1節 2次関数のグラフ 第2節 2次関数の値の変化	1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定	○	○	○		
7	第3節 2次方程式と2次不等式	5 2次方程式 6 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7 2次不等式	○	○	○		授業の進め方 ・教科書の例題を用いた解説 ・教科書や副教材の練習問題を用いた演習 ・小テストによる既習事項の確認 ・言語活動による応用問題への取り組みなど
8	第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用	1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張 4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理と余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用	○	○	○		
9	第1節 三角比 第2節 三角形への応用	1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張 4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理と余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用	○	○	○		学習の方法 ・授業で学習する内容をあらかじめ教科書で予習してくる。 ・教科書や副教材で指示された課題を解いてくる。
10	数学A 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	1 集合の要素の個数 2 場合の数 3 順列 4 組合せ	○	○	○		
11	第2節 確率	5 事象と確率 6 確率の基本性質 7 独立な試行と確率 8 条件付き確率 9 期待値	○	○	○		
12	数学A 第2章 図形の性質 第1節 平面図形	1 三角形の辺の比 2 三角形の外心・内心・重心 3 チェバの定理・メネラウスの定理 4 円に内接する四角形 5 円と直線 6 2つの円 7 作図 8 直線と平面 9 空間図形と多面体	○	○	○		
1	第2節 空間図形	1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位範囲 4 分散と標準偏差	○	○	○	評価の観点 ○知識・技能 ・基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているか。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけているか。 ○思考・判断・表現 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質やほかの事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけているか。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしていたり、粘り強く考え数学的論拠のに基づいて判断したりしようとしているか。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしているか。	
2	数学Ⅰ 第5章 データの分析	1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位範囲 4 分散と標準偏差	○	○	○		
3		5 2つの変量の間関係 6 仮説検定の考え方	○	○	○		
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							
評価の方法 ・授業態度 ・発表や板書などの取り組み ・課題の提出 ・小テスト ・定期考査							

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	数学	科目	数学Ⅰ・A	単位数	5	
年組	1年3組		教科書(発行所)	新編 数学Ⅰ, 数学A(数研出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	第1章 数と式 第1節 式の計算	1 多項式の加法と減法	○	○	○	学習の目標
		2 多項式の乗法	○	○		
5	第2節 実数 第3節 1次不等式	3 因数分解	○	○	○	・数と式, 図形と計量, 2次関数, 図形の性質, 場合の数と確率及びデータの分析について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。
		4 実数 5 根号を含む式の計算	○	○		
6	第2章 集合と命題 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	6 不等式の性質 7 1次不等式	○	○	○	授業の進め方
		8 絶対値記号を含む方程式・不等式	○	○		
7	第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式と2次不等式	1 集合 2 命題と条件	○	○	○	・教科書の例題を用いた解説 ・教科書や副教材の練習問題を用いた演習 ・小テストによる既習事項の確認 ・言語的活動による応用問題への取組など
		3 命題とその逆・裏・対偶 4 命題と照明	○	○		
7	第4章 図形と計量 第1節 三角比	1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ	○	○	○	学習の方法
		3 2次関数の最大・最小	○	○		
8	第2節	4 2次関数の決定	○	○	○	・授業で学習する内容を, あらかじめ教科書で予習してくる。 ・教科書や副教材で指示された課題を解いてくる。
		5 2次方程式	○	○		
9	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	6 2次関数のグラフとx軸の位置関係	○	○	○	評価の観点
		7 2次不等式	○	○		
10	第2節 確率	1 三角比	○	○	○	知識・技能 ・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
		2 三角比の相互関係	○	○		
11	第3章 数学と人間の活動	3 三角比の拡張	○	○	○	思考力・判断力 ・数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。
		4 正弦定理 5 余弦定理	○	○		
12	第1節 平面図形	6 正弦定理と余弦定理の応用	○	○	○	主体的に学習に取り組む態度 ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
		7 三角形の面積 8 空間図形への応用	○	○		
12	第2節 空間図形	1 集合の要素の個数 2 場合の数	○	○	○	評価の方法
		3 順列 4 組合せ	○	○		
1	第2章 図形の性質	5 事象と確率	○	○	○	・授業態度 ・発表や板書等の取り組み ・課題の提出 ・小テスト・定期考査
		6 確率の基本性質 7 独立な試行と確率	○	○		
2	第1節 平面図形	8 条件付き確率	○	○	○	
		1 約数と倍数 2 素数と素因数分解	○	○		
3	第2節 空間図形	3 最大公約数・最小公倍数	○	○	○	
		4 整数の割り算 5 ユークリッドの互除法	○	○		
3	第2節 空間図形	6 1次不定方程式 7 記数法	○	○	○	
		8 座標の考え方 9 ゲーム・パズルの中の数学	○	○		
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	数学	科目	数学 I	単位数	2	
年組	2年 1組		教科書(発行所)	高校数学 I (実教出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	3章 三角比 三角比の復習 2節 三角比の応用	三角比		○		学習の目標 ・数学的活動を通して、論理的な思考力や演算能力を伸ばす。 ・与えられた問題に対して、適切な開放を選択して答えることができるようにする。 ・基本的な高校数学の知識を身につけ、今後の学習への基礎を固める。
5		三角比の利用 〃 三角比の相互関係	○		○	
6		1 三角比の拡張	○		○	
		2 三角形の面積	○		○	
		〃 〃	○ ○		○ ○	
7		〃	○		○	
7		4章 集合と論証 1節 集合と論証	3 正弦定理	○		
8	〃		○		○	
9	4 余弦定理		○		○	
	〃		○		○	
	5 正弦定理と余弦定理の利用		○		○	
10	〃		○		○	
	1 集合と要素		○		○	
	〃		○		○	
11	2 命題		○		○	
12	〃		○		○	
	3 いろいろな証明法		○		○	
	〃		○		○	
12	5章 データの分析 1節 データの分析	1 統計とグラフ	○		○	学習の方法 ・授業で学習する内容を、あらかじめ教科書で予習してくる。 ・教科書や副教材で支持された課題を解いてくる。
1		〃	○		○	
		2 度数分布表とヒストグラム	○		○	
		〃	○		○	
2		3 代表値	○		○	
		4 データの散らばり	○		○	
3		5 外れ値	○		○	
3	6 相関関係	○		○		
	7 仮説検定の考え 黄金比、最大値、傾斜角度 背理法、データの作成	○		○		
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						
評価の観点 ○知識・技能 ・基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているか。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけているか。 ○思考・判断・表現 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質やほかの事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけているか。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしていたり、粘り強く考え数学的論拠のに基づいて判断したりしようとしているか。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしているか。						
評価の方法 ・授業態度 ・発表や板書などの取り組み ・課題の提出 ・小テスト・定期考査						

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	4		
年組	2年 2組		教科書(発行所)	最新 数学Ⅱ(数研出版)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4	第1章 式と証明 第1節 節式と計算 第2節 等式・不等式の証明 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式 第2節 高次方程式 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線	1 多項式の乗法と因数分解 2 二項定理 3 多項式の割り算 4 分数式の乗法・除法 5 分数式の加法・減法 6 恒等式 7 等式の証明 8 不等式の証明 9 相加平均と相乗平均	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	学習の目標 いろいろな式, 図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに, それらを活用する態度を育てる。	
5		1 複素数 2 2次方程式の解と判別式 3 解と係数の関係 4 剰余の定理と因数定理 5 高次方程式の解法	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	授業の進め方 ・ 例題を解説し, 教科書の練習問題や補充問題, 課題プリント等を解きながら理解を深める。 ・ 適宜小テストにより内容が理解できているか確認する。	
6		1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の平行と垂直	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		
7				○ ○	○ ○	○ ○	
7		第2節 円 第3節 軌跡と領域 第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理 第5章 指数関数と対数関数	5 円の方程式 6 円と直線 7 軌跡 8 不等式の表す領域 9 連立不等式と領域	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	学習の方法 ・ 授業中に与えられた課題を解いてくる。 ・ 定期テストの訂正ノートを作成し, 復習をする。
8			1 一般角 2 弧度法 3 三角関数 4 三角関数のグラフ 5 三角関数を含む方程式, 不等式	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	
9			6 加法定理 7 加法定理の応用 8 三角関数の合成 〃	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	評価の観点
10	1 指数法則 2 指数関数とそのグラフ 2 指数関数とそのグラフ 3 対数 4 対数の性質 5 対数関数とそのグラフ 6 常用対数 〃		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○知識・技能 ・ 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているか。 ・ 事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けているか。 ○思考・判断・表現 数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質やほかの事象との関係を認識し統一的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けているか。 ○主体的に学習に取り組む態度 ・ 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり, 粘り強く考え数学的論拠のに基づいて判断したりしようとしているか。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようとしているか。	
11				○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	
12				○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	
12	第6章 微分法と積分法 第1節 微分法 第2節 積分法 課題学習	1 平均変化率と微分係数 2 導関数 3 いろいろな関数の微分 4 接線 5 関数の増減 6 関数の極大・極小 7 関数の最大・最小 8 方程式・不等式への応用 9 不定積分 10 不定積分の計算 11 定積分 12 定積分の性質 13 面積 〃	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	評価の方法 ・ 学習活動への取り組み ・ 課題, 提出物の状況, ノート, プリント ・ 定期考査 ・ 小テスト	
1				○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	
2				○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	
3			いろいろな平均 線形計画法, 弦の長さと言速さと距離	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	数学	科目	数学Ⅱ・B	単位数	5	
年組	2年3組		教科書(発行所)	新編 数学Ⅱ, 数学B (数研出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	数学Ⅱ 第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式・不等式の証明	1 3次式の展開と因数分解 2 二項定理3 整式の割り算 4 分数式とその計算 5 恒等式 6 等式の証明 7 不等式の証明	○	○	○	学習の目標 いろいろな式, 図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分, 数列, 統計的な推測などについて理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現・処理する技能を身に付け, それらを活用する態度を育てる。
5	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 第2節 高次方程式	1 複素数とその計算 2 2次方程式の解 3 解と係数の関係 4 剰余の定理と因数定理 5 高次方程式	○	○	○	
6	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域	1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の関係 5 円の方程式 6 円と直線 7 2つの円 8 軌跡と方程式 9 不等式の表す領域	○	○	○	
7	第4章 三角関数 第1節 三角関数	1 角の拡張 2 三角関数 〃	○	○	○	
7	第2節 加法定理	3 三角関数のグラフ 4 三角関数の性質 5 三角関数を含む方程式, 不等式 6 加法定理 7 加法定理の応用	○	○	○	
8	数学Ⅱ 第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数	〃 1 指数の拡張 2 指数関数 3 対数とその性質 4 対数関数	○	○	○	
9	第2節 対数関数 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変化	5 常用対数 1 微分係数 2 導関数とその計算 3 接線の方程式 4 関数の増減と極大・極小 5 関数の増減・グラフの応用	○	○	○	
10		6 不定積分 7 定積分 8 定積分と面積	○	○	○	
11	数学B 第1章 数列	1 数列と一般項 2 等差数列 3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和	○	○	○	
12		〃	○	○	○	
12	第2節 いろいろな数列	6 和の記号Σ 7 階差数列 8 いろいろな数列の和	○	○	○	評価の観点 知識・技能 ・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 思考力・判断力 ・数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 主体的に学習に取り組む態度 ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
1	第3節 漸化式と数学的帰納法 第2章 統計的な推測 第1節 確率分布	9 漸化式 10 数学的帰納法 1 確率変数と確率分布 2 確率変数の期待値と分散 3 確率変数の和と積 4 二項分布	○	○	○	
2	第2節 統計的な推測	5 正規分布 6 母集団と標本 7 標本平均の分布 8 推定 9 仮説検定	○	○	○	
3		〃	○	○	○	
【備考】						
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						
授業の進め方 ・教科書の例題を用いた解説 ・教科書や副教材の練習問題を用いた演習 ・小テストによる既習事項の確認 ・言語的活動による応用問題への取組など						
学習の方法 ・授業で学習する内容を, あらかじめ教科書で予習してくる。 ・教科書や副教材で指示された課題を解いてくる。						
評価の方法 ・授業態度 ・発表や板書等の取り組み ・課題の提出 ・小テスト・定期考査						

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	数学	科目	数学Ⅱ・B	単位数	5	
年組	2年4組文系		教科書(発行所)	新編 数学Ⅱ、数学B (数研出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	数学Ⅱ 第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式・不等式の証明	1 3次式の展開と因数分解 2 二項定理3 整式の割り算 4 分数式とその計算 5 恒等式 6 等式の証明 7 不等式の証明	○	○	○	学習の目標 いろいろな式, 図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分, 数列, 統計的な推測などについて理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現・処理する技能を身に付け, それらを活用する態度を育てる。
5	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 第2節 高次方程式	1 複素数とその計算 2 2次方程式の解 3 解と係数の関係 4 剰余の定理と因数定理 5 高次方程式	○	○	○	
6	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域	1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の関係 5 円の方程式 6 円と直線 7 2つの円 8 軌跡と方程式 9 不等式の表す領域	○	○	○	
7	第4章 三角関数 第1節 三角関数	1 角の拡張 2 三角関数 〃	○	○	○	
7	第2節 加法定理	3 三角関数のグラフ 4 三角関数の性質 5 三角関数を含む方程式, 不等式 6 加法定理 7 加法定理の応用	○	○	○	
8	数学Ⅱ	〃	○	○	○	
9	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 第2節 対数関数	1 指数の拡張 2 指数関数 3 対数とその性質 4 対数関数 5 常用対数	○	○	○	
10	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変化	1 微分係数 2 導関数とその計算 3 接線の方程式 4 関数の増減と極大・極小 5 関数の増減・グラフの応用	○	○	○	
11	数学B 第1章 数列	6 不定積分 7 定積分 8 定積分と面積 1 数列と一般項 2 等差数列 3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和	○	○	○	
12	第2節 いろいろな数列	6 和の記号Σ 7 階差数列 8 いろいろな数列の和	○	○	○	
1	第3節 漸化式と数学的帰納法 第2章 統計的な推測 第1節 確率分布	9 漸化式 10 数学的帰納法 1 確率変数と確率分布 2 確率変数の期待値と分散 3 確率変数の和と積 4 二項分布	○	○	○	
2	第2節 統計的な推測	5 正規分布 6 母集団と標本 7 標本平均の分布 8 推定 9 仮説検定	○	○	○	
3	〃	〃	○	○	○	
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発表や板書等の取り組み 課題の提出 小テスト・定期考査 						

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	数学	科目	数学Ⅱ・B	単位数	6	
年組	2年4組理系		教科書(発行所)	新編 数学Ⅱ, 数学B (数研出版)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	数学Ⅱ 第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式・不等式の証明	1 3次式の展開と因数分解 2 二項定理3 整式の割り算 4 分数式とその計算 5 恒等式 6 等式の証明 7 不等式の証明	○	○	○	学習の目標 いろいろな式, 図形と方程式, 指数関数・対数関数, 三角関数及び微分・積分, 数列, 統計的な推測などについて理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現・処理する技能を身に付け, それらを活用する態度を育てる。
5	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 第2節 高次方程式	1 複素数とその計算 2 2次方程式の解 3 解と係数の関係 4 剰余の定理と因数定理 5 高次方程式	○	○	○	
6	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域	1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の関係 5 円の方程式 6 円と直線 7 2つの円 8 軌跡と方程式	○	○	○	
7	第4章 三角関数 第1節 三角関数	1 角の拡張 2 三角関数 〃	○	○	○	
7	第2節 加法定理	3 三角関数のグラフ 4 三角関数の性質 5 三角関数を含む方程式, 不等式 6 加法定理 7 加法定理の応用	○	○	○	
8	数学Ⅱ 第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数	〃 1 指数の拡張 2 指数関数 3 対数とその性質 4 対数関数	○	○	○	
9	第2節 対数関数 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変化	5 常用対数 1 微分係数 2 導関数とその計算 3 接線の方程式 4 関数の増減と極大・極小 5 関数の増減・グラフの応用	○	○	○	
10	第2節 関数の値の変化	6 不定積分 7 定積分 8 定積分と面積	○	○	○	
11	数学B 第1章 数列	1 数列と一般項 2 等差数列 3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和	○	○	○	
12	第2節 いろいろな数列	〃	○	○	○	
12	第2節 いろいろな数列	6 和の記号 Σ 7 階差数列 8 いろいろな数列の和	○	○	○	思考力・判断力 ・数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 主体的に学習に取り組む態度 ・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
1	第3節 漸化式と数学的帰納法 第2章 統計的な推測 第1節 確率分布	9 漸化式 10 数学的帰納法 1 確率変数と確率分布 2 確率変数の期待値と分散 3 確率変数の和と積 4 二項分布	○	○	○	
2	第2節 統計的な推測	5 正規分布 6 母集団と標本 7 標本平均の分布 8 推定 9 仮説検定	○	○	○	
3	第2節 統計的な推測	〃	○	○	○	
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						
評価の方法 ・ 授業態度 ・ 発表や板書等の取り組み ・ 課題の提出 ・ 小テスト・定期考査						

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	数学	科目	数学探究Ⅳ	単位数	2		
年組	3年 1組	教科書(発行所)	数学探究Ⅳ(南宇和高校)				
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点				項目
			関	思	技	知	
4	1章 中学校の復習 1節 図形の性質 2節 比と歩合	1 円、平行線、角の性質 2 面積の応用 1 百分率と割合 2 比率の応用	○	○	○	○	学習の目標 数学的活動を通して、論理的な思考力や演算能力を伸ばす 授業の進め方 既習事項の数Ⅰ・Ⅱの内容を復習し、応用的な問題にも対応できる力を身につける。
5		3 食塩水の濃度	○	○	○		
6	1章 関数と図形 1節 方程式と不等式 2節 2次関数	1 式と計算 2 無理数と基本対称式 3 方程式・不等式の解法 1 平行移動と対象移動 2 最大値・最小値	○	○	○	○	
7			○	○	○	○	
7		3 2次不等式の整数解 4 2次関数の種々の問題	○	○	○	○	
8	2章 図形と計量	1 三角比の基本性質	○	○	○	○	
9		2 直線の傾きと三角比 3 三角比と図形	○	○	○	○	
10		4 種々の面積問題	○	○	○	○	
11		3章 確率と証明 1節 場合の数と確率	1 集合の基本性質 2 場合の数 3 組合せの数	○	○	○	○
12		4 確率の基本性質	○	○	○	○	
12	2節 論理と集合	1 命題と論証	○	○	○	○	学習の方法 ・ 補助教材の練習問題を用いた演習 評価の観点 関心・意欲・態度 数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしているか。 数学的な見方や考え方 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けているか。 数学的な技能 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けているか。 知識・理解 数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けているか。
1	4章 平面図形	2 整数問題	○	○	○	○	
2		1 三角形の内心・外心・垂心・重心	○	○	○	○	
3			○	○	○	○	
3			○	○	○	○	
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						評価の方法 ・ 授業態度 ・ 発表や板書等の取り組み ・ 課題の提出 ・ 小テスト・定期考査	

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	数学	科目	数学探究Ⅳ	単位数	2		
年組	3年2組		教科書(発行所)	数学探究Ⅳ(南宇和高校)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点				項目
			関	思	技	知	
4	1章 中学校の復習 1節 図形の性質	1 円、平行線、角の性質 2 面積の応用	○		○		学習の目標 数学的活動を通して、論理的な思考力や演算能力を伸ばす。
5	2節 比と歩合	1 百分率と割合 2 比率の応用 3 食塩水の濃度 "	○		○	○	
6	1章 関数と図形 1節 方程式と不等式	1 式と計算 "	○		○	○	
7		2 無理数と基本対称式 "	○		○	○	
		3 方程式・不等式の解法 "		○	○	○	
				○	○	○	
				○	○	○	
							授業の進め方 既習事項の数Ⅰ・Aの内容を復習し、応用的な問題にも対応できる力を身につける。
7	2節 2次関数	1 平行移動と対称移動 "	○		○	○	学習の方法 補助教材の練習問題をを用いた演習
8				○	○		
9	2章 図形と計量	2 2次関数の最大値・最小値 3 2次不等式の整数解 4 2次関数の種々の問題	○		○	○	
10		1 三角比の基本性質 "	○		○	○	
11		2 直線の傾きと三角比 3 三角比と図形 "	○		○	○	
12		4 種々の面積問題 "	○		○	○	
11	3章 確率と証明 1節 場合の数と確率	1 集合の基本性質 2 順列の数 3 組合せの数 4 確率の基本性質 "	○		○	○	評価の観点 関心・意欲・態度 数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしているか。
							数学的な見方や考え方 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けているか。
12	2節 論理と集合	1 命題と論証 2 整数問題	○		○		数学的な技能 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けているか。
1	4章 平面図形	1 三角形の内心・外心・垂心・重心 "		○	○	○	知識・理解 数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けているか。
2		2 円の接線の基本性質		○	○		
3							評価の方法 ・ 授業態度 ・ 発表や板書等の取り組み ・ 課題の提出 ・ 小テスト・定期考査
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	数学	科目	数学探究 I	単位数	3		
年組	3年3組文系		教科書(発行所)	数学探究 I (南宇和高校)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点				項目
			関	思	技	知	
4	第1章 数と式 第2章 2次関数 第3章 図形と計量	1 式の計算(1)	○		○		学習の目標 1・2年次に学習した内容の基礎的・基本的な知識・技術の再確認をするとともに、習熟をさらに深め、論理的思考力を養う。また、問題に対して、多角的なアプローチすることにより、問題解決能力を養う。 授業の進め方 ・前日に課題として問題を解かせておく。 ・生徒自身が解答を板書する。 ・自己の解答について、解説を行う。 ・質疑応答を行う。 ・説明不足の箇所や別解を教科担当者が補足説明する。
5		2 式の計算(2)	○		○		
		3 1次不等式		○	○	○	
		4 集合			○	○	
		5 命題と論証			○	○	
		6 2次関数			○	○	
		7 2次関数の最大・最小 8 2次方程式と2次不等式		○	○	○	
6	第4章 データの分析 第5章 場合の数と確率 第6章 図形の性質 第7章 整数の性質 総合問題演習	9 三角比の基本	○	○			
7		10 三角比と図形(1)	○		○		
		11 三角比と図形(2)		○	○	○	
		12 データの代表値と散らばり	○		○	○	
		13 データの相関		○		○	
		14 場合の数・順列(1)	○		○		
		15 順列(2)・組合せ		○	○	○	
8	第6章 図形の性質 第7章 整数の性質 総合問題演習	16 確率(1)			○	○	
		17 確率(2)			○	○	
		18 平面図形(1)			○	○	
		19 平面図形(2)			○	○	
		20 空間図形		○	○	○	
		21 整数の性質(1)		○	○	○	
		22 整数の性質(2)		○	○	○	
9	総合問題演習	23 整数の性質(3)	○		○		
		総合演習問題		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
10	総合問題演習	総合演習問題	○		○		
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
11	総合問題演習	〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
12	総合問題演習	〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
12	総合問題演習	〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
1	総合問題演習	〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
2	総合問題演習	〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
3	総合問題演習	〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
		〃		○	○	○	
【備考】							
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							
学習の方法 ・問題集(ニューステージ数学演習)を活用する。 ・生徒自身が解答を板書、解説、質疑応答することにより、論理的思考力を身に付けさせるとともに、言語活動の充実を図る。 ・補足説明を必要とする場合や別解がある場合は、教科担当者が行い、知識や技能をより深めていく。 評価の観点 関心・意欲・態度 数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしているか。 数学的な見方や考え方 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けているか。 数学的な技能 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けているか。 知識・理解 数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けているか。 評価の方法 学習状況は、「関心・意欲・態度」、「数学的な見方や考え方」、「数学的な技能」、「知識・理解」の4つの観点をもとに総合的に評価します。具体的には、「授業態度・取り組み方」、「小テスト」、「提出物」、「定期考査」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。							

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	数学	科目	数学探究Ⅱ	単位数	3		
年組	3年3組(文)		教科書(発行所)	数学探究Ⅱ(南宇和高校)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点				項目
			関	思	技	知	
4	第1章 式と証明	1 式と証明 基本 2 式と証明 応用	○ ○	○	○	<p>学習の目標</p> <p>各分野について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。</p> <p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> 例題を解説し、教科書の練習問題や補充問題、課題プリント等を解きながら理解を深める。 適宜小テストにより内容が理解できているか確認する。 	
5	第2章 複素数と方程式	1 複素数 2 高次方程式	○	○	○		
6	第3章 図形と方程式	1 点・直線・円 2 曲線と直線 3 軌跡	○	○	○		
	第4章 三角関数	1 三角関数の基本性質 2 加法定理、2倍角の公式	○	○	○		
7							
7	第5章 指数関数・対数関数	1 指数の性質 2 指数の最大値・最小値	○	○	○		<p>学習の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業中に出された課題を解いてくる。 定期テストの訂正ノートを作成し、復習をする。 <p>評価の観点</p> <p>関心・意欲・態度 数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしているか。</p> <p>数学的な見方や考え方 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けているか。</p> <p>数学的な技能 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けているか。</p> <p>知識・理解 数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けているか。</p>
8		3 対数の性質 4 対数の最大値・最小値	○	○	○		
9	第6章 微分法・積分法	1 関数の極限值 2 関数の微分 3 関数が極値をもつための条件 4 関数のグラフと方程式 5 定積分で表された関数 6 面積の計算	○	○	○		
10			○	○	○		
11	第7章 ベクトル	1 平面上のベクトル 2 ベクトルの内積 3 空間上のベクトル	○	○	○		
12		共通テスト対策問題 共通テスト対策問題	○	○	○		
		共通テスト対策問題	○	○	○		
12	第8章 数列	1 等差数列・等比数列 2 数列の和 3 漸化式	○	○	○		
1		共通テスト対策問題 応用問題	○	○	○		
2		応用問題	○	○	○		
3							
<p>【備考】</p> <p>※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。</p>							
<p>評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習活動への取り組み 課題 提出物の状況 (ノート, プリント) 定期考査 小テスト 							

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	数学	科目	数学Ⅲ	単位数	6			
年組	3年3組理系		教科書(発行所)	改訂版 新編 数学Ⅲ(数研出版)				
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点				項目	
			関	思	技	知		
4	第1章 複素数平面	1 複素数平面 2 複素数の極形式 3 ド・モアブルの定理 4 複素数と図形	○	○			学習の目標 1・2年次で学習内容をもとに、さらに高度な内容を学習することにより、より強い興味・関心を持たせ、数学Ⅲにおける基礎・基本の定着を図る。また、問題演習を通して、論理的思考力や問題解決能力を向上させる。 授業の進め方 ・教科書の内容説明 ・教科書の問題演習及び解説 ・各章ごとの問題集を用いた演習及び解説	
5	第2章 式と曲線 第1節 2次曲線	1 放物線 2 楕円 3 双曲線 4 2次曲線の平行移動 5 2次曲線と直線	○		○	○		
6	第2節 媒介変数表示と極座標	6 曲線の媒介変数表示 7 極座標と極方程式 8 コンピュータの利用		○	○	○		
	第3章 関数	1 分数関数 2 無理関数 3 逆関数と合成関数	○		○	○		
7		〃			○	○		
7	第4章 極限 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限	1 数列の極限 2 無限等比数列 3 無限級数 4 関数の極限(1) 5 関数の極限(2)	○		○	○		学習の方法 ・教科書の例、例題の解説を通して、確実に内容の理解を図るとともに、練習問題、補充問題、章末問題を通して基礎力の定着を図る。 ・各章終了後には、問題集(クリアー)を活用し、学習内容の再確認、応用力の向上を目指す。 評価の観点 関心・意欲・態度 数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して判断しようとしているか。 数学的な見方や考え方 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けているか。 数学的な技能 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けているか。 知識・理解 数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けているか。
8		6 三角関数と極限 7 関数の連続性		○	○	○		
9	第5章 微分法 第1節 導関数	1 微分係数と導関数 2 導関数の計算 3 いろいろな関数の導関数	○	○	○	○		
10	第2節 いろいろな関数の導関数	4 第n次導関数 5 曲線の方程式と導関数		○	○	○		
	第6章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな応用	1 接線の方程式 2 平均値の定理 3 関数の値の変化 4 関数のグラフ 5 方程式、不等式への応用	○	○	○	○		
11	第7章 積分法とその応用 第1節 不定積分	1 不定積分とその基本性質 2 置換積分と部分積分法 〃	○		○	○		
12		3 いろいろな関数の不定積分 〃		○	○	○		
12	第2節 定積分	4 定積分とその基本性質 5 置換積分法と部分積分法			○	○		
1	第3節 積分法の応用	6 定積分のいろいろな問題 7 面積 8 体積 9 道のり 10 曲線の長さ 〃	○		○	○		
2				○	○	○		
3					○	○		
【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。								

令和5年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	数学	科目	数学探究Ⅲ	単位数	6		
年組	3年3組(理)		教科書(発行所)	数学探究Ⅲ(南宇和高校)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点				項目
			関	思	技	知	
4	数学 I	1 数と式 基本 1 数と式 例題	○	○			学習の目標 ・ 数学的活動を通して、論理的思考力や演習能力を伸ばす。 ・ 既習事項である数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bの内容を復習し、応用的な問題にも対応できる力を身に付ける。
5		1 数と式 問題	○	○			
		2 2次関数 基本 2 2次関数 例題	○	○			
		2 2次関数 問題	○	○			
		3 図形と計量 基本 3 図形と計量 例題	○	○			
		3 図形と計量 問題	○	○			
		4 データの分析 基本	○	○			
6	数学A	4 データの分析 例題	○	○			
		4 データの分析 問題	○	○			
7		1 場合の数と確率 基本	○	○			
		1 場合の数と確率 例題	○	○			
		1 場合の数と確率 問題	○	○			
						授業の進め方	
						・ 副教材の練習問題を用いた演習 ・ 応用問題の解説	
						学習の方法	
7	数学Ⅱ	2 図形の性質 基本 2 図形の性質 例題	○	○			評価の観点 関心・意欲・態度 数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしているか。 数学的な見方や考え方 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けているか。 数学的な技能 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けているか。
8		2 図形の性質 問題	○	○			
		3 整数の性質 基本	○	○			
		3 整数の性質 例題	○	○			
		3 整数の性質 問題	○	○			
9		1 式と証明、複素数と方程式 基本	○	○			
		1 式と証明、複素数と方程式 例題	○	○			
		1 式と証明、複素数と方程式 問題	○	○			
10		2 図形と方程式 基本	○	○			
		2 図形と方程式 例題	○	○			
		2 図形と方程式 問題	○	○			
11		3 三角関数、指数・対数関数 基本	○	○			
	3 三角関数、指数・対数関数 例題	○	○				
	3 三角関数、指数・対数関数 問題	○	○				
12	4 微分法・積分法 基本	○	○				
	4 微分法・積分法 例題	○	○				
	4 微分法・積分法 問題	○	○				
	共通テスト対策問題	○	○				
	共通テスト対策問題	○	○				
12	数学B	1 ベクトル 基本	○	○			
		1 ベクトル 例題	○	○			
		1 ベクトル 問題	○	○			
1		2 数列 基本	○	○			
		2 数列 例題	○	○			
	2 数列 問題	○	○				
2		応用問題	○	○			
3			○	○			
【備考】						評価の方法	
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「数学的な見方や考え方」、「数学的な技能」、「知識・理解」の4つの観点から評価する。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「小テスト」、「課題(毎時の宿題や週末課題、長期休業中の課題)」により評価する。	